

平成27年度 国有林野事業業務研究発表会 発表課題一覧

《森林技術部門》

第一会場：農林水産省 本館7階 第3特別会議室

No.	発表時間	発表課題名	森林管理局	森林管理署等	発表者氏名(現所属)
1	10:00 ～ 10:20	道北における一貫作業システムの充実に向けて	北海道	上川北部森林管理署	清水川 一儀 直井 陽代
	伐採と造林の一貫作業において、高性能林業機械をより効率的に活用する方法を、木質バイオマス原料の集積も含めて検証し、北海道北部地域の地況に対応した作業システム等の提案とそれを踏まえた検討事例を報告する。				
	2	10:20 ～ 10:40	誘導伐及び一貫作業システム推進に向けた検討	九州	熊本南部森林管理署
今後の主伐再造林の推進に向け、効果的・効率的な誘導伐の実施のため、管内で実施した複数のタイプの誘導伐箇所の検証等を行い、今後の誘導伐の実施にあたっての、適切な路網計画や作業システムの設計に資するための研究成果について報告する。					
3		10:40 ～ 11:00	トータルコスト削減への挑戦！ ～伐・造一貫作業システムin愛知～	中部	愛知森林管理事務所
	先進的林業機械による伐・造一貫作業システムの実行により、トータルコストの削減について検証し、地域林業への情報発信に取り組んだ結果を報告する。				
	【休憩 15分】 11:00 ～ 11:15				
4	11:15 ～ 11:35	九州地域における低密度植栽の検証について	九州	森林技術・支援センター	池水 寛治 田中 和利
	九州地域(長崎、熊本、熊本南部、宮崎北部、西都児湯、宮崎、都城、大隅各署)におけるスギ・ヒノキの低密度植栽箇所(1,500/ha)と対照地(2,000～2,500/ha)との成長量の比較・検証の結果から、低密度植栽による低コスト再造林について提案する。				
	5	11:35 ～ 11:55	コンテナ苗植栽技術の開発・普及に向けた取組	中部	中信森林管理署
コンテナ苗植栽技術の開発・普及に向けた取組として、新たにコンテナ苗植栽器具を作成し植栽体験会を開くとともに、コンテナ苗と裸苗の生育比較試験を実施した結果を報告する。					
6		11:55 ～ 12:15	単木伐採法による複層林上木の全面伐採 ～短期二段林施業の可能性を探る～	近畿中国	兵庫森林管理署
	単木伐採法により造成された複層林のうち下木林齢が20年を経過した林分3箇所において、下木の成長を確保し健全な林分へと誘導することを目的に、試験的に上木を全面的に伐採し、伐採・搬出時における下木の損傷状況等を調査した結果を報告する。				
	【昼休み 75分】 12:15 ～ 13:30				
7	13:30 ～ 13:50	天然林での樹種の多様化を図る更新方法の開発	北海道	森林技術・支援センター	友田 敦
	従来の天然更新手法ではカンバ等の単純な林相になることから、森林総研北海道支所との共同で伐採による照度のコントロールと小面積地がきの組合せにより多様な樹種を更新させる試験を行ったのでその結果を報告する。				
	8	13:50 ～ 14:10	国産材を使用した型枠用合板の利用拡大に向けた取り組み	東北	山形森林管理署
国産材利用促進の一環として、治山工事に国産材を用いた型枠用合板の使用を普及するため、国産カラマツを用いた国産材使用率50%以上の型枠と従来型の型枠について使用回数、そり等の比較試験の取組を報告する。					
9		14:10 ～ 14:30	木質バイオマスの販売による収入確保の可能性の検討	近畿中国	山口森林管理事務所
	山口所での森林バイオマスの搬出状況についてまとめるとともに、需要開拓・拡大に向けて山口県内の森林バイオマスの利用状況等について調査し、林地残材の販売による収入確保の可能性について検討した結果を報告する。				
	10	14:30 ～ 14:50	かかり木の安全対策について	四国	愛媛森林管理署
平成24年度に管内で発生したかかり木を原因とする重大災害を契機として、過去の災害原因を分析し、アンケートによる作業員の意識調査及びかかり木の衝撃エネルギー算出実験を実施し、メンタル面からの災害抑制対策に向けた取組を報告する。					
【休憩 20分】 14:50 ～ 15:10					
11	15:10 ～ 15:30	「中越地区直轄地すべり防止事業」10年間の成果	関東	中越森林管理署	小柳 勝志(現 局治山課)
	平成16年に発生した新潟県中越地震による山地災害の復旧のため実施した「中越地区直轄地すべり防止事業」について、平成26年度末をもって10年間に及ぶ事業が終了したことから、本事業の成果について報告する。				
	12	15:30 ～ 15:50	雄物川流域における市町村森林整備計画の策定支援 ～民有林と国有林のフォレスター等の連携～	東北	秋田森林管理署
秋田県雄物川流域の市町村森林整備計画の策定に当たり、民有林と国有林のフォレスター等が連携して、「基本方針等への地域性の打ち出し」を目標に取り組んだ活動内容を報告する。					
13		15:50 ～ 16:10	公益的機能維持増進協定による森林整備の推進について	関東	天竜森林管理署 静岡県天竜農林局
	浜松市三ヶ日町日比沢自治会との間で全国初の「公益的機能維持増進協定」を締結。ミカンの産地等の事情を踏まえ地域との連携のもと、民有林の森林整備を国有林が行うという前例の無い取組みについて、苦労した点や課題等を報告する。				
	【休憩 15分】 16:10 ～ 16:25				
特別発表	16:25 ～ 16:55	火山灰質粘性土における上・下層土の粒度分布と森林作業 道路面支持力	森林技術総合研修所 林業機械化センター 森林総合研究所 林業工学研究領域		波崎 卓巨 鈴木 秀典
	森林作業道作設が困難とされる火山灰質粘性土において、それを克服するための手法の一つである「天地返し」の有効性が認められたため報告する。				

《森林ふれあい部門》

第二会場：農林水産省 本館7階 共用第10会議室(午前)

No.	発表 時間	発表課題名	森林管理局	森林管理署等	発表者氏名(現所属)
1	10:00 ～	名勝・ ^{いりのまつばら} 入野松原の再生 ～地域連携による取り組み～ 「名勝入野松原再生」を目標に、自治体や地域住民で組織する各団体の活動が多様化する中、国有林と地域が連携・協調し「地域のためにやるべき事はやる、地域にも必要なことは協力してもらう。」という関係を構築し取り組んだ数々の成果を報告する。	四国	四万十森林管理署	林 美樹也
	10:20				中村 正史
2	10:20 ～	地域で考えるポロト自然休養林の活用と保全 平成24年度から3年間、胆振東部森林管理署所在地にある自然休養林の活用と保全について、地域関係機関と協議会を設け検討してきた取組を、休養林施設の利用者アンケート結果報告を中心に総括、考察する。	北海道	胆振東部森林管理署	濱崎 ちさと(現 後志署)
	10:40			北海道白老町役場	坂本 世悟
3	10:40 ～	「ふれあいの森【 ^{だどめささら} 駄留桜々良の森】」における森林整備活動等の取り組み 宮崎県木城町駄留地区の住民で構成する鳥獣保護対策協議会と締結した「ふれあいの森【駄留桜々良(だどめささら)の森】」での自主的な森林整備活動と森林管理署の支援について紹介する。	九州	西都児湯森林管理署	中村 正任
	～			宮崎県児湯農林振興局	福岡 忠行
	11:00				江藤 能充
【休憩 15分】 11:00 ～ 11:15					
4	11:15 ～	地域の特色を活かした体系的な森林環境教育の取り組み 森林鉄道、青森ヒバ、技術開発成果である空中取り木等支署とセンターが連携して取り組んでいる地域の特色ある題材を活かした体系的な森林環境教育の取組みについて、中学校の活動(遊々の森)を中心に紹介する。	東北	津軽森林管理署 金木支署	佐々木 尚輝
	11:35			森林技術・支援センター	岡浦 貴富(現 技術普及課)
5	11:35 ～	箕面の森で体験から学ぶ ～「森の探検隊」プログラムの実践～ 森林内に設けたポイントを巡り、森林・林業や動植物、シカの被害、五感で感じることなどを体験し学べる「森の探検隊」を小学生対象に実践しており、体験後の発表会や教員等との連携などの取組を報告する。	近畿中国	箕面森林ふれあい推進センター	池田 克司
	11:55				
6	11:55 ～	遊々の森の活動を振り返って ～「多摩市民の森・フレンドツリー」～ 南信森林管理署と東京都多摩市とで遊々の森協定を締結し、多摩市の小学生等に体験林業の場を提供してきた。昨年度その活動が評価され、「間伐・間伐材利用コンクール 間伐実践・環境教育部門」において林野庁長官賞を受賞したことから、これまでの活動を報告する。	中部	南信森林管理署	新川 雄大
	～			多摩市立八ヶ岳少年自然の家	五味 直喜
	12:15				
【昼休み 75分】 12:15 ～ 13:30					

《森林保全部門》

第二会場：農林水産省 本館7階 共用第10会議室(午後)

No.	発表 時間	発表課題名	森林管理局	森林管理署等	発表者氏名(現所属)
1	13:30 ～ 13:50	囲いわなによる効率的なシカ捕獲及び普及	四国	森林技術・支援センター	芹口 竜一
	森林技術・支援センターにおいて平成23年度より低コストで軽量の「囲いわな」を開発し、さらに、捕獲の効率向上や耐久性の検証等を実施するとともに、普及・支援活動にも取り組んでいる経過について報告する。				
2	13:50 ～ 14:10	これからの狩猟の担い手 ～森林官ハンターとしてエゾシカ対策を考察～	北海道	網走中部森林管理署	中西 誠
	近年、エゾシカ数の増加とハンターの高齢化・減少が問題となっている。また、国有林で狩猟事故等が発生している。そこで、ハンターへのアンケート調査等を行い、森林官ハンターとしての立場から今後の狩猟の担い手について考察する。				
3	14:10 ～ 14:30	迫りくるシカ被害に備えて	東北	三陸北部森林管理署	菊池 耕太 市原 良浩(現 岩手北部署)
	当署管内のシカ被害・対策状況及び猟友会の意識を調査し、地域により状況が異なることが分かった。そこで、現在シカ被害は小さいが、今後生息域・被害の拡大が予測される村を対象に実施した、地域と連携した被害防止対策の取組を報告する。				
4	14:30 ～ 14:50	簡易チェックシートを用いたニホンジカ影響調査結果	関東	局 保全課 一般社団法人 日本森林技術協会	黒沢 幸一 関根 亨
	奥日光国有林において、森林鳥獣被害対策技術高度化実証事業の事前調査として「簡易チェックシート」を用いたシカによる剥皮や摂食程度等を調査し、対象地域における将来の被害予測を示したハザードマップを作成した取組を報告する。				
【休憩 20分】 14:50 ～ 15:10					
5	15:10 ～ 15:30	木曽駒ヶ岳における植生復元作業について(10年間の取組み)	中部	木曽森林ふれあい推進センター 東京コンサルタンツ株式会社	小林 伸雄 藤田 淳一
	荒廃した高山植物の植生を復元するため、平成17年度から実施しているボランティア等による植生マット敷設作業とそのモニタリング調査の経過について報告する。				
6	15:30 ～ 15:50	海岸保安林機能の維持と景観保全に配慮した虹の松原管理マニュアル	九州	佐賀森林管理署 国土防災株式会社	大村 俊貴 山部 国広 佐藤 亜貴夫
	佐賀県虹の松原では、海岸保安林機能を維持しつつ景観に配慮した松原の整備が求められていることから、マツの健全化を図る密度管理、遷移を抑制する林床管理について調査を行い「虹の松原管理マニュアル」を策定した取組を報告する。				
7	15:50 ～ 16:10	カワウと人の共生の森プロジェクト 10年の節目を迎えて ～カワウ対策10年の歩みと今後の森林管理について～	近畿中国	滋賀森林管理署	片桐 亜由美
	伊崎国有林は、一時は1万羽を超える数まで急増したカワウにより11haの森林が枯死するという甚大な被害を受けた。森林被害の復旧に向けて取り組んだ10年間の対策と成果、今後の森林管理のあり方について報告する。				